

平成 30 年度 研究計画書

Research Plan FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア・アフリカ講座 (トルコ語) 特任講師
氏名 Name	Dirik (Gomez de la Fuente) Seval
専門分野 Academic Field	言語学・方言学

平成 30 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2018 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	トルコのチャナッカレ方言の文法形式に関する記述的研究				
研究計画 (400 字~500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words)					
<p>トルコの諸方言の記述的研究は進められているが、北西方言の一部を成すチャナッカレ方言に関する研究 (特に文法現象についての記述的研究や現地調査による方言データの記述) が不十分である。従来、チャナッカレ県アイヴァジュック町サズル村を中心に現地調査を行い、共通語に見られない文法形式である-mAk vā 述語形式の文法化について考察し、推量を表す述語形式であることを明らかにした。本年度の研究ではチャナッカレ県の他の地域方言で見られる文法現象についてデータを収録し、mAk vā 述語形式の存在を確かめ、その形式におけるエヴィデンシャルティ及びミラティビティについてさらに検討を進めていきたい。そのため、夏期にサズル村意外にもチャナッカレ県アイヴァジュック町にある村々を中心に現地調査を行う予定である。収録した言語データをデータベース化していくとともに形態統語論的な観点から考察していきたい。</p> <p>また、日本語の方言研究がかなり進んでいるため、日本語の方言文法を足掛かりにして様々な言語現象について考察を深めるために言語資料や先行研究を収集し、アイデアを構築し、トルコ語との対照研究ができるように考察を進めたい。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	言語学	方言学	教育	トルコ語学・ チュルク諸語	
キーワード Keywords*2	形態統語論	意味論	対照研究	evidentiality	mirativity